



立野

練馬区立立野小学校

平成27年 2月号

<http://www.tateno-e.nerima-tyky.ed.jp>

いじめ一掃は 毎日の生活から

副校長 加納 聖一

一年で一番寒い時期「大寒」を過ぎ、ここ数日は幾分寒さもやわらぎました。2月を迎えるとすぐに3日は冬と春とを分ける「節分」、4日は「立春」と呼ばれ、暦の上では春です。まだまだ寒い日は続きますが、確実に春の到来を感じさせてくれます。

さて、練馬区では、学校が子供たちにとって「安心して過ごせる穏やかな場所」となるよう、いじめの未然防止と早期発見・早期解決を目指して、1年間に3回、大きな取り組みを行っています。1回目は6月の「ふれあい(いじめ防止強化)月間」、2回目は11月に行った「いじめ一掃取組月間」です。そして3回目が、2月に行う「ふれあい(いじめ防止強化)月間」です。どの取り組みでも、子供たちにアンケートを取り、学級の人間関係や自分の気持ちを記述させ、学校生活の振り返りをさせます。その際、自分が嫌な気持ちになったときばかりでなく、相手に嫌な気持ちにさせてしまったときの振り返りも大切にしています。また、標語やシンボルマークを作る活動を通して、子供たちの“いじめを許さない”態度や行動を醸成させています。

本校でも、この年3回のいじめ一掃の取り組みを確実に実施し、子供たちの学校生活を注意深く見守っていますが、一番大切なのは、教師や子供自身が毎日の生活を見つめ振り返ることだと考えています。

本校の教員は、子供たちが登校してくる時間帯は、教員が交代で朝のあいさつを行い、8時15分の入室時間には、担任が教室で子供たちを迎えています。そこで、一人一人の子供とあいさつを交わしながら、その表情を注意深く見守ります。休み時間には、子供たちと一緒に遊んだり、見守ったりしながら、学級内の人間関係の把握に努めます。その際、集団の遊びになかなか入れないでいる子供に声をかけたり、一緒に遊んだりしています。休み時間は、子供同士のトラブルが発生しやすい時間帯でもあります。そんな時は、子供たちの気持ちを聞いた上で、相手の気持ちや学校のルールにも目を向けさせ、解決の糸口を探る手助けをしています。クラス遊びを企画して、意図的に大人数で遊ぶ楽しさと難しさを体験させている学級もあります。

学級や学年というのは、小さな集団ではありますが、他人と一緒に過ごす社会です。社会の中では自分の気持ちや感情だけで行動できません。こんなことを言ったら相手はどんな気持ちになるだろうと、相手の気持ちを推し量る力が必要です。この“人を思いやる心や行動力”を育てていくことが、いじめのない安心な学校づくりに繋がると考え、日々の実践を積み重ねています。

そして、放課後は、保護者の皆様の出番です。下校後のお子さんとたくさん話をしてください。お子さんの何気ない言葉や行動には、その日の子供の気持ちが表れています。まずはお子さんの気持ちを受けとめてあげた上で、「その時、お友達はどんな気持ちだったか」にも目を向けさせてください。

学校とご家庭が一体となって、自分自身と同じように相手のことも大切にできる子供を育てて参りたいと考えております。今後とも、保護者の皆様、地域の皆様のご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。